

その人らしい「最期」を支える

6月1日、福岡県大野城市に開設した「かんだ内科医院」。地域のかりつけ医を目指し、外来診療だけでなく、在宅医療にも力を入れる。菊間幹太郎院長に、開院の理由や思いを聞いた。

■消化器内科↓救急↓訪問診療・緩和ケア

医師を志したのは、中学生のころ。サッカー部の顧問に勧められたことと、義兄が医大生だったことがきっかけです。大学卒業後は福岡大学筑紫病院内科・消化器科に入局。研修医2年目に、当時の同科教授、八尾恒良先生の御配慮で、癌研究会附属病院(現がん研有明病院)に国内留学をさせていただきました。ここでは多くのがん症例を経験することができました。ただ、同期の多くは救急をローテーションしており、私は、救急を経験していないことが、何となく心残りでした。そこで、4年目から久留米大学病院高度救命救急センターに行かせていただきました。久留米大学医学部救急医学講座教授(当時)の坂本照夫先



菊間 幹太郎 かんた内科医院 院長

福岡県立東筑高校卒業 2000 福岡大学医学部卒業
2001 同筑紫病院内科・消化器科入局 2004 久留米大学
医学部救急医学講座助教 2012 秦病院 2013 福岡大学
大学院医学研究科病態構造系専攻博士課程修了 2014
業院内科循環器クリニック副院長 2015 原土井病院内
科・緩和ケア部長 2016 かんた内科医院開院

生の下、集中的・集学的治療が必要な病態の管理でのバイタルサインの重要性や身体所見の取り方・評価の研鑽を積み、さらに、ドクターヘリのフライトドクターとしても経験を重ねました。現在、患者さんご自宅など医療機関外での診療に積極的に取り組めるのも、その経験があるからだと思えます。「この救急医療・集中治療での病態を把握し、優先順位をつけて判断する力」は、多疾患が併存する高齢者の診療においても非常に役立っています。大学院で博士号を取得後は、医療法人社団扶洋会秦病院に就職しました。同院院長の秦洋文先生は救命センター時代に世話になった方で、大学院時代にも同院でアルバイトさせてもらっていた縁がありました。



在宅医療のオピニオンリーダーである永井康徳・ゆうの森理事長(左から3人目)と、かんた内科医院スタッフ

外来診療の中で、患者さんに付き添って来院されたご家族の言葉は、今も鮮明に憶えています。「仕事を休んで通院に付き添っているけれど、本当に大変。訪問診療などは始めないのですか?」と。訪問診療・往診という在宅医療のニーズを肌で感じた瞬間でした。同時期に社会福祉法人悠生会の永沼泰理理事長からこの場所での医院開設を打診されたこともあり、医院開院と在宅医療への従事を決意しました。その後、外来と訪問診療のミックス型クリニックや病院の緩和ケア病棟(ホスピス)での勤務を通じ、訪問診療や緩和ケアのあり方を学び、準備を重ねてきました。

■「ご当地」地域包括ケアシステムの構築のために
超高齢社会の日本では、在宅療養のサポートが今後さらに重要になっていきます。2018年度からの第7次医療計画策定に向けても、在宅医療及び医療・介護連携のワーキンググループでの協議が開始されています。ただ、在宅医療に關わっている医師や看護師はまだ多いとは言えませんが、在宅医療の質を高め、保つ移動時間を減らし、時間の多くを診療に費やしたいと考え、訪問診療の範囲は半径3km。この距離なら、訪問診療中に外来診療の依頼がきても対応できますし、逆もしかりです。



待合室



院内カンファレンス



かんた内科医院が入る建物のロビー

■在宅医療の質を高め、保つ
移動時間を減らし、時間の多くを診療に費やしたいと考え、訪問診療の範囲は半径3km。この距離なら、訪問診療中に外来診療の依頼がきても対応できますし、逆もしかりです。当院の通常の訪問診療・往診は医師と看護師の二人。でも、初回往診や、何らかの処置を行う時は、医療事務スタッフも一緒に同行することにしていきます。これは、スケジュール調整や算定・請求業務などに関わるスタッフも在宅での診療を知っておくことはもちろん、患者さんやご家族と顔を合わせ、「医療・介護保険制度の仕組みの中で、この患者さんに対してできることは何かないか?」と考えることが大切だと思うからです。今は、2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなる時代。さらに今後は、「がん多死社会」が到来します。住み慣れた場所で最期の瞬間を迎えたいと願う方の思いを支えること、体の痛みだけでなく、心の痛みも分かち合いながら、その人らしい最期を整えることは、「かんだ内科医院」の一つの責務です。最期を迎える方と向き合う時、身体的ケアを含め介護ニーズは増加しますが、医療ニーズは徐々に減少していくようになっています。医療者と患者というよりも、「人と人」。



かんた内科医院

福岡県大野城市中
2丁目3番地1号
☎092・513・0120
http://kantaclinic.com/

人。それが最も重要な要素になってくると感じています。ですから、当院では毎日朝と夕方、スタッフ全員で患者さんの情報を共有しています。いつ患者さんやご家族から連絡が来ても、そして誰が対応しても、「そうでしたか、うかがっていますよ」と答えられるようにすることと、安心してもらえるのではと考えています。

■多職種が一つの建物に
当院の入っている社会福祉法人悠生会の「悠生会地域包括ケアセンター」には訪問歯科診療も行う「ゆめ歯科クリニック」と24時間対応で配薬や服薬管理をする「薬局クオラス」も併設されています。さらに一日最大139人のケアを可能にした大規模デイサービスセンター、在宅介護支援センター、ケアプランセンター、訪問介護ステーションもあり、まさに地域に根差した地域包括ケア実践のための「かかりつけ施設」です。さまざまな職種の間が関係・連携を通じ、効率的な地域包括ケアシステム(ご当地システム)を構築するための基盤ができあがったと確信しています。地域住民の方々とともに、一丸となつて前進していこうと思つています。

開院おめでとう
ございます

医療法人社団 扶洋会
秦病院
理事長 秦 洋文
〒816-0931 福岡県大野城市筒井1丁目3番1号
TEL 092-501-1111 FAX 092-582-7738

社会福祉法人 悠生会
地域包括ケアセンター
〒816-0906 福岡県大野城市中2丁目3番1号
TEL:092-504-5855

QOLAS 薬局クオラス
代表取締役 河野 賢二
福岡県大野城市中2丁目3-1

在宅療養後方支援病院
医療法人相生会 金隈病院
内科・リハビリテーション科・老年精神科・歯科
院長 久野 修資
TEL.092-504-0097
介護老人保健施設 楽陽園
入所(認知症専門)・短期入所・通所リハビリテーション
福岡市博多区金の隈3丁目24番16号 TEL.092-504-2671

一人ひとりの Quality of Lifeの向上。
それが帝人ファーマの使命です。
帝人ファーマは医薬品と医療品の両分野から医療に貢献できるトータルヘルスケアを提供してまいります。
帝人ファーマ株式会社
http://www.teijin-pharma.co.jp/

■INVITATION
愛媛大学医学部附属病院発行。今号では乳癌センターで活躍する山下美智子医師、村上宋里医師、西山加那子医師を紹介。女性医師のキャリアデザインや女性医師が活躍するために必要なことなどについて3人に質問している。
新任教授紹介コーナーでは泌尿器科学講座の雑賀隆史教授と脳神経外科科学講座の國枝武治教授を紹介。

■BELL
社会医療法人生長会発行。市民講座レポートは「足の健康について」ベルランド総合病院看護部の片山将宏リーダーが解説。足の健康チェックの方法や歩くのに適した靴の選び方について述べている。またベルランド総合病院のフットケア外来についても紹介。

熊大通信
特集は「熊大と「熊本地震」」。4月に起きた熊本地震は甚大な被害をもたらした。熊本大学でも重軽傷者108人、立ち入り禁止建物5棟、要修理及び修理不能設備2432件の被害があったそう。黒髪、本荘、大江キャンパスでのボランティア活動や九州大学法学部との大学間連携について詳細にレポート。

ニュースレターが来た②
7面からの続き